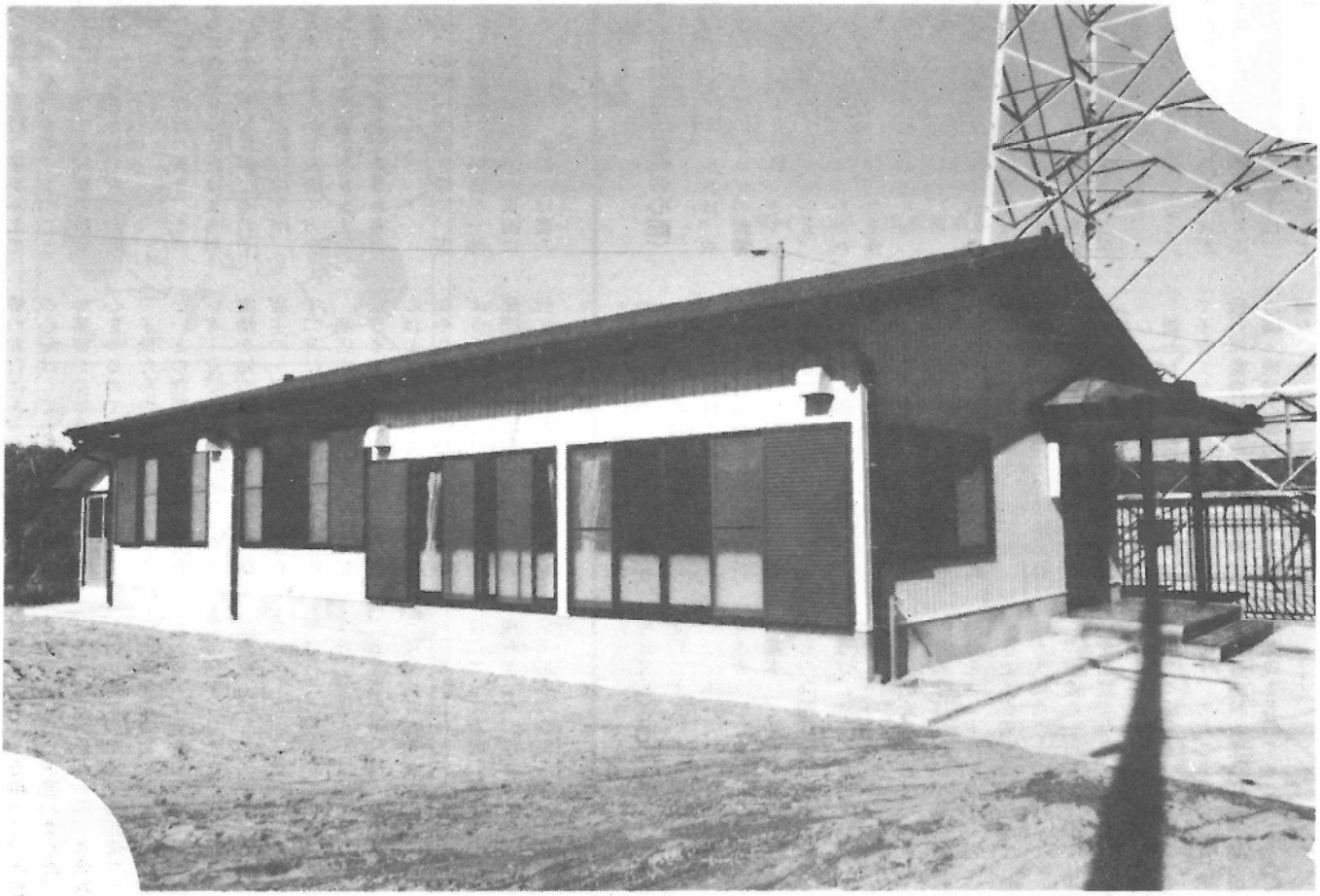
昭和57年２月　第４号
海蔵社協通算　第25号

地区広報 かいぞう



待望の公会所完成 ――末永焼却場跡地――

長年の夢がかなって

末永焼却場跡地の利用について、末永五ヶ町（末永一・二区本郷一・二区、清水町）より市へ、地区の公会所と子供広場にして欲しいとの要望が出されておりましたが、やっとその願いが実現し、昨年十二月、海蔵南公会所が完成しました。

約八十人収容のホールと、和室二間を有する立派なものです。

有意義かつ大切に活用を

落成式以降、すでに多くの方々が利用され、大変好評を得ています。

公会所運営委員会の代表者、柏木健三さんは「子供から高令者まで幅広い層に、大いに利用して戴き、住みよい地域づくりの場にしていただきたい」と語っておられます。

皆んなで有意義に、かつ大切に活用したいものです。

編集・発行―四日市市海蔵地区市民センター・海蔵地区社会福祉協議会

すこやかな成長を願って ―二つの提言―

まわりが子供を変える

海蔵小学校教頭　黒田竜雄

盗みや非行を行う子がふえてきているようですが、このことは残念なことです。児童の教育の現場にある者として責任を感じます。

この盗みや非行の責を、その子たちに負わせることはまちがっています。まわりが、その子の心を育ててきたわけですが、このとき、まちがった育て方をしてきた所に問題があります。その責任こそ重大であると考えます。

昨年、本校へ万引き等で、店屋さんや御家庭から連絡が一件もございませんでした。表面には現われないが、実際には盗み等の非行はあるのではないかとの心配はしているものの、直接の事案がないだけに安心をし、心をゆるめてもおりました。

子供たちの盗みは決して少くないとの判断から、地区市民センターなどのお骨おりで、その実情を知るために、地区内の商店主の一部の方々との懇談会が十二月にもたれました。

商店主の方々のお話を聞いて驚きました。まさか、こんなにしばしば、しかも横着で、悪質なやり方で盗みが行なわれていようとは思っていませんでした。集団化していて、盗みが他の非行にすぐに移行していきやすい状況にあることを知って、ただごとでないことを思いました。

この会合の結果から、冬休みをひかえて、早速学級指導でこの問題を重視してとりあげるとともに、保護者の皆様にも現況を理解していただき、御協力をお願いしました。協力のお願いはしましたが、その効果については、そう期待できるものではない、学校として出来るだけのことをしなければ、とそんなふうに考えておりました。

それがうれしいあて外れで、ほんとうに有難い結果になって現れました。冬休みの前後に商店を訪ねてお話を伺ったのですが、保護者の方々の今回の御協力と、家庭教育の効果の大きさをはっきりと知ることができました。

「こんどの休みの子供たちは、ちがいましたよ」

「みんなよい子ばかりでした。私たちからも声をかけました。よかったです」

「盗み……。ぜんぜんありませんでしたよ」

等、商店主の方々も一様に父兄の御協力を評価し、喜んでくれていました。

わが子を素直に育てようとする親の心が、ここにうきぼりにされていることに気付いて、とてもうれしく、有難く感じました。今回の御協力にあらためて感謝申しあげます。

はじめに書きましたように、非行児はその子が悪いのではなく、その子のしつけや指導に手おちやあやまりがあったことを知って、まわりが自省しなければならんと思います。今後も更に、地域・学校・保護者が協力し合って、子供たちをまっすぐに育てていかねばなりませんがそのために力をかしていただきますよう、お願いを申し上げます。

健康で・明るく・やさしい・賢明なこども

三重県北勢児童相談所　日江井幸治

〈子どもの生活と親の心配〉

子どもをとりまく生活は、衣食、住のすべてにテレビの影響を受けて、商品化されてきています。子どもの生活リズムも、テレビやラジオにふりまわされ、夜中まで起きていて、朝食も食べられないほど起床が遅くなっています。

また、放課後や、学令前の子どもが、塾やスポーツ教室などによってしばられ管理されて、地域の異年令集団の中で、自由に十分な生活体験を積むことができなくなってきています。

子どもの生活を〝カネとモノ〟に支配された状態に放置しておいては、立派な子どもを育てることができません。子育ては、家庭と学校と地域が協力をしてやっていかなければなりません。しかし、親だけ、とりわけ、母親のみの責任と考えられがちで、育児ノイローゼ、子育て不安が深刻化し、すべての家庭の共通の問題となっているようです。

子どもの問題は、非行、校内暴力だけではありません。いじめっ子やいじめられっ子、友達が作れず遊びができない子、登校拒否、家庭内暴力、学習不振児などの問題が、どこの学校、幼稚園、保育園でも多くみられるようになりました。

〈家庭教育と親の役割〉

親としての自覚と自信を持って子育てをするには、夫婦の一致した養育、親と教師の信頼、近隣・地域の協力が何よりも必要なことです。また、親が子どもに家庭で責任を持って教え、実行させていかなければならないことも、たくさんあります。できそうでできない〝家庭教育の基本〟、基本が崩れれば、子どもの問題行動は必ず生まれてきます。

一、はつらつとしたリズムのある生活を確立させることは、朝の床ばなれ（早起き）は自分をコントロールする力を、子どもが育てる第一歩で、最も大切なことです。

二、家族の一員として働く仕事を家庭で与え、自ら身体を動かす生活をさせ、工夫や創造をする能力をつけさせることです。このことは、生活体験、先行体験を豊富にし、学力の基礎を養成することにも役立ちます。

三、テレビから子どもの生活をとりもどすため、見る時間と番組を決め、食事のときはテレビを切り、登校、登校前の子ども番組を見せないようにしなければなりません。

四、親をバカにするようなことを見過さず、弱い者いじめ、失敗へのひやかし、盗みなどをしたときは、きっぱりとした態度で注意し、教え、改めさせなければなりません。かわいいからと甘やかさない、きっぱりした態度が価値判断力をつけるのに重要です。

五、家の自慢料理や地域の伝承遊び、親の得意なもの、趣味などを教え、家族のふれあいを深めていかなければなりません。

六、親は子どものカガミです。親が誇りと自信を持って、どんなことに喜び、悲しむか、また、親の仕事や家族、地域の歴史などを話す機会を多くしなければなりません。

〈地域に大きな根を〉

すべての家庭で、家庭教育の基本を守り、充実させて、すべての子どもが健康で、明るく、やさしい、賢明な子どもに育てようではありませんか。家庭教育で必要なことを、親と教師近隣・地域の人々が協力をし、子育ての不安が地域で解消されるようになることを願っています。

草刈りに汗を流す皆さん

山手中生徒会・西阿倉川若生会の皆さん

アイナシの草刈りをする

アイナシは、イヌナシと栽培されているナシの中間の種という意味で、明治三十六年に発見され、大正十一年に国の天然記念物に指定された、文化的・学術的に価値の高いものです。イヌナシが他にも見られるのに対し、アイナシは、日本では全く発見されていない、非常に珍しいものです。

自生地では、適度な日当り、風当り、湿気、養分等がバランスよく保たれる必要があります。つまり、放っておいてもダメ、きれいに整理し過ぎてもダメというわけです。

昨秋、市教育委員会文化財担当職員の指導の下、山手中学校の生徒会の皆さんと、西阿倉川老人クラブ「若生会」の方々とによって、草刈りが行なわれました。ササやツル、雑木の繁る自生地も、二時間余りで刈り取られ、見違える程美しい環境になりました。

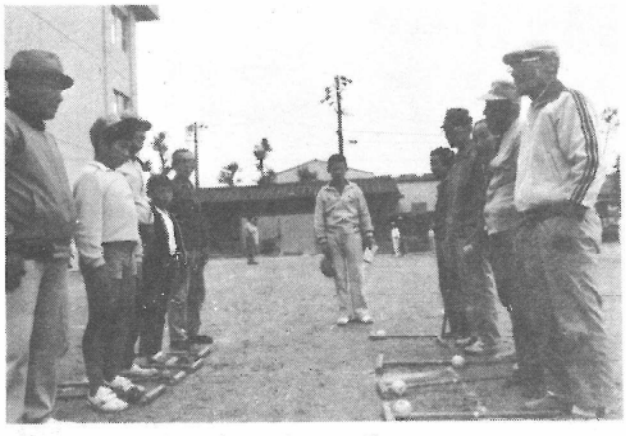
アイナシの由来の説明を受けて、参加者全員が『アイナシは地域の大切な文化財である』との認識を新たにし、今後も定期的に清掃奉仕をしてゆきたいと意を改たに致しました。

老人と子どものゲートボール大会開かる

十一月三日、文化の日。世代交流とお年寄りの体力づくりを兼ねた、海蔵地区老人と子どものゲートボール大会が、小学校運動場で行なわれました。あいにくの曇天にもかかわらず、老人クラブのブロックより選ばれた小学生とお年寄りの混成チームが、それぞれ技を競い合いました。

ゲートボールは、イギリスの上流社会に伝わるクリケットを基にして、どこでも、誰でも、気軽に楽しめるようにと、日本で考案されたスポーツです。見た目には簡単そうですが、実際に行なってみると意外と難しく、また奥の深いチームプレーを必要とするゲームだということがわかります。

老人クラブ「若生会」会長の舘佐市さんは、「こうして子どもたちといっしょに競技することは楽しく、意義深いものです。今後も定期的に行なってもらえれば有難いが……」と話しておられました。


ゲートボール風景

海蔵幼稚園新園舎完成

幼稚園建設委員会委員長　太田南海雄

老朽化していたため、改築工事が進められていた海蔵幼稚園園舎もほぼ完成し、三月中旬には落成式がとり行なわれる見通しとなりました。

思えば〝新しい園舎を〟との声が聞かれてからこの方、随分久しい月日が経過しましたが、それだけに完成の感激は、ひとしおであります。この間、いろんな方々のご努力、ご尽力があったことを忘れることができません。紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

落成式後は、例え一日でも、二日でも現在の園児に新園舎で過ごしてもらえるよう、関係者に準備を進めて頂いておりますが、新園舎で元気に走りまわる子供達の姿が、今から目に浮ぶ思いです。

今日、青少年の非行が大きな社会問題となっておりますが、非行に走った子ども達を分析すると、幼児期における「歪んだ子育て」「適切な教育の欠落」が指摘されるのであります。幼児期の歪みが、成長して非行に結びつくというわけです。となれば事は重大です。もちろん、その原因は各家庭にあるわけですが、幼児教育にかかわる者が一体となって取り組む必要があるでしょう。

こうした折に、新しい施設、設備が整い、かつ四月からは二年保育になることは、大変時を得ていると言えます。

最後に園へのお願いになりますが、今後は、当地区の幼児教育の機関として、保育園と連携を保ちつつ、一層のご努力を期待するものです。

私共も陰ながら、地域の皆さんと共に協力を惜しまぬ覚悟でございます。

編集後記

厳冬も、二月半ばを過ぎると暖かい日には何処となく春の気ざしが感じられます。でも本当の春はまだまだ先……、皆様ご自愛の程を。

今回は都合により紙面を縮少しました。ご意見、ご批判を賜りたく存じます。

地区広報編集委員会

海蔵地区の地名を調べて

市教育委員会社会教育課　森　逸郎

地名には、その土地の歴史があり、人々の生きてきた足跡があります。それ故、地名を知ることは大変興味深いことです。

今回、この地方の地名を調査・研究していらっしゃる市教育委員会文化財担当主幹、森逸郎先生に、海蔵地区の地名について執筆していただきました。

一、はじめに

土地には、それぞれに古くから由来のある名前がつけられております。それを地名といいます。地名には、長い時間を経てその土地に住む人々の生活にじませた歴史的所産ともいうべき顔をもっております。

二、地名は改変される

日本の地名は、大化改新により国郡里の制度が整備されました。たとえば、野田なら「伊勢国三重郡野田里」と呼称したものです。

平安時代になると、郡名の下に郷名（前記野田なら柴田郷野田里）がつけられたりします。小字名には、この名残りが多くあります。羽津地区に「八ノ坪」「六ノ坪」とあるのもその例です。

武家の政治とともに、城下町の形成などで地名が目まぐるしく変えられます。東阿倉川には羽津城の城下町であったと推定される小字名があります。江戸時代初期になって、現在の大字名ほどの地名がほぼ固定したものと考えられております。

明治二十二年になって、近代的な市町村制度が確立されて、現在にいたっております。その後の社会情勢の変動、産業発展、人口急増、戦災その他の災害、市町村合併など、世相とともに地名も激変しております。

昭和三十七年施行の住居表示は、従来親しまれてきた地名を大きく改変しております。一方では国民共有の文化的な所産の地名が消滅さえしております。この反動として全国各地で、地名を正しく継承していこうとする動きや、地名の研究が高まっております。

三、地名の研究

ここ数年来、歴史学、地理学、民族学など各分野諸学問において地名研究がすゝめられ、その成果には目を見張るものがあります。今、三重県においても出版二社による地名辞典執筆の競り合いもその一例であります。

三重県下の社会科教師、郷土研究家、学者等により作業が進められており、その成果が期待されております。

こんなふん囲気の中、三泗小中学校社会科教育研究協議会に所属する先生方の「現地で学ぶ会」も、昭和五十六年度の研究テーマは「地名に学ぶ」であります。そのうちで、去る十一月羽津中学校において開かれた例会の記録から海蔵地区に関するものを多少ひろい上げてみました。

四、海蔵「かいぞう」

阿倉川は、あくらがわと読めばいいのですが、果してどんな意味があるのでしょうか。いろいろと考えてみますと、海蔵地区の中央部を流れる海蔵川と深く関係がありそうです。

海をどう読むか。海部（あま）郡が愛知県にあります。地域によっては、「海」を「あま」と読ませております。志摩半島の「海女」は特に有名であります。そこで「海蔵川」を「かいぞうがわ」と読まずに「あくらがわ」と読んだらどうでしょうか。

「海」がいつの時代かに「阿」に変ってしまったのでしょう。地名に東・西阿倉川として残り川の名前に「海蔵（かいぞう）川」が伝えられてきたようです。

さて、海蔵・あくらであるから、当然海に深く関係をもつことです。特に川辺に海女達の収獲した海産物を納める蔵・納屋が立ち並ぶ地域であったから、海蔵川の地名が起ったわけです。

さらに「末長（永）」の地名は、河口の長大な砂浜を由来としております。江戸時代初期には、末永村から浜一色村が分村しております。浜一色は字の示す通りであります。阿倉川の台地から南方を見渡したかっての海蔵地区は、雄大な海蔵川と伊勢湾の姿を浮び上らせたものでしょう。

明治二十二年、東阿倉川、西阿倉川、野田、末永の四ヶ村が合併して海蔵村と名付けたことは、まことにすばらしい先人の智恵であったといえましょう。昭和五年、四日市へ併合して村名が消滅したことはさびしい限りであります。（次号へ続く）